株主のみなさまへ

Vol.63

株主通信 第120期中間期

2026年1月1日～2026年6月30日

SHIMANO

表紙：鹿児島県南薩地磯のヒラスズキフィッシング

SHIMANO

代表取締役社長　島野泰三

事業の経過および成果

当中間連結会計期間におきましては、世界経済は総じて底堅さを維持しつつも、各国の通商政策の動向、中東情勢の緊迫化を背景としたエネルギー価格の上昇等の地政学リスクの高まりにより、景気の先行きは依然として不透明な状況が継続しました。

欧州では、雇用環境は底堅かったものの、物価上昇の影響等により個人消費は力強さを欠き、景気は弱含みで推移しました。

米国では、物価上昇や金利動向を背景に個人消費に慎重さがみられた一方、AI関連投資の拡大等が下支えし、景気は底堅く推移しました。

中国では、長引く不動産市場の低迷や雇用環境の停滞を背景に個人消費は伸び悩み、景気は弱含みで推移しました。

日本では、資源価格の高騰による景気の下振れリスクがあるものの、継続する所得環境の改善を背景に個人消費は底堅く推移し、景気は緩やかな回復基調を維持しました。

このような環境の下、自転車、釣具への関心は継続し、当中間連結会計期間における売上高は247,059百万円（前年同期比4.1％増）、営業利益は27,249百万円（前年同期比3.1％減）となり、為替差益等により経常利益は35,324百万円（前年同期比151.6％増）、親会社株主に帰属する中間純利益は27,950百万円（前年同期比605.5％増）となりました。

自転車部品

長期的なトレンドとして自転車への高い関心が継続する中、完成車の店頭販売は一部の地域を除いて堅調に推移し、市場在庫の調整は進展しました。

海外市場においては、欧州市場では、冬場のオフシーズンを経て春先の完成車の店頭販売は堅調に推移したものの、市場在庫はやや高めの水準で推移しました。

北米市場では、景気の先行き不透明感や関税による完成車価格の高止まり等の影響を受け、完成車の店頭販売は弱含みで推移した一方で、市場在庫は適正水準を維持しました。

アジア・中南米市場においては、完成車の店頭販売は持ち直しの兆しが見られたものの、市場在庫はやや高めの水準で推移しました。また、中国市場では、引き続きロードバイクの需要は落ち着いていた一方で、通勤・通学向けマウンテンバイク等の店頭販売に持ち直しの動きが見られ、市場在庫はやや高めの水準ながらも調整は進捗しました。

日本市場においては、完成車価格の高騰や物価上昇の影響を受け、店頭販売は弱含みで推移した一方で、市場在庫は適正水準を維持しました。

このような市況の下、刷新したマウンテンバイク向けコンポーネントの最高峰モデル「XTR」をはじめ、「DEORE XT」、「DEORE」の３シリーズや、自己発電で動作する自動変速機能を備えた「Q'AUTO」に対して引き続き高い評価をいただきました。

この結果、当セグメントの売上高は181,379百万円（前年同期比0.0％減）、営業利益は20,064百万円（前年同期比15.1％減）となりました。

釣具

釣具への関心は引き続き底堅く、販売は総じて堅調に推移し、市場在庫は適正水準を維持しました。

日本市場においては、物価上昇の影響により個人消費が低迷し、販売は弱含みで推移したものの、市場在庫の調整は進展しました。

海外市場においては、北米市場では、西海岸部および南東部の良好な釣況に支えられ、販売は堅調に推移し、市場在庫は適正水準を維持しました。

欧州市場では、一部地域において天候不順等の影響から釣シーズンの立ち上がりが遅れ、市場在庫はやや高めの水準で推移したものの、販売は総じて堅調に推移しました。

アジア市場では、中国市場を中心に高価格帯製品の底堅い需要に支えられ、販売は堅調に推移し、市場在庫は適正水準を維持しました。

豪州市場では、引き続き良好な天候と好調な釣況を背景に、販売は堅調に推移し、市場在庫は適正水準で推移しました。

このような市況の下、新製品のスピニングリール「VANQUISH CE」や新製品のベイトリール「CALCUTTA CONQUEST BFS LIMITED」に高い評価をいただくとともに、引き続きスピニングリール「STELLA SW」などの製品に多くのご注文をいただきました。

この結果、当セグメントの売上高は65,466百万円（前年同期比17.4％増）、営業利益は7,179百万円（前年同期比59.8％増）となりました。

その他

当セグメントの売上高は213百万円（前年同期比8.6％減）、営業利益は６百万円（前年同期は営業損失１百万円）となりました。

中間配当のご報告

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、安定的な配当の維持・継続とともに、業績の進展に応じた成果の配分を行うことを基本方針とし、引き続き配当の充実と、機動的な自社株買い継続により総還元性向50％を下限の目安とし、株主還元向上につとめます。

この基本方針に基づき、今回の中間配当金につきましては、2026年２月公表（予想）のとおり、前年同期から12円増配の１株当たり181円50銭とさせていただきました。なお、当期末の配当について、１株当たり181円50銭とし、その結果当期の年間配当額は１株当たり363円を予定しております。

今後の見通し

通期連結業績予想につきましては、市場在庫の調整が見込み通りに進展する中で、円安及びアジア通貨高の進行等に伴う売上及び利益に対する為替影響等と、中東情勢による原油価格高騰などの影響等を踏まえ、売上高及び営業利益の予想を次のとおりといたします。また、当第２四半期（中間期）連結会計期間において、為替評価益等の営業外収益が増加したこと等を踏まえ、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の予想についても、次のとおり変更いたします。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなにとぞ変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026年9月

2026年12月期　通期連結業績予想数値の変更（2026年1月1日～ 2026年12月31日）

	売上高（単位：百万円）	営業利益（単位：百万円）	経常利益（単位：百万円）	親会社株主に帰属する当期純利益（単位：百万円）	1株当たり当期純利益（単位：円）
前回発表予想（A）	467,000	47,000	53,300	42,000	488.19
今回修正予想（B）	491,000	47,000	56,000	43,000	505.94
増減額（B)-(A)	24,000	0	2,700	1,000	
増減率（%）	5.1	0.0	5.1	2.4	
前期実績（2025年12月期）	466,243	51,677	47,029	33,991	388.17

自転車部品事業

SCIENCE OF SPEED

DURA-ACE

NEW WHEELS WH-R9370 SERIES

速さを“科学”し辿り着いた勝利に導くための「推進力」

この秋、ロードバイクコンポーネントのフラッグシップ「DURA-ACE」より、新型ホイール「WH-R9370」シリーズが登場します。5年の歳月をかけて設計、開発、検証を行った新モデル。そこに託されたのは、ライダーを勝利に導くためのかつてない「総合力」でした。

勝利を掴み取るための、究極のバランス

より速く、より快適に進むための軽量性、鍛え抜かれた脚力にもひるまない剛性、空気の“壁”を切り開くエアロ（空力）性能。推進力を司るホイールに求められるこれらの要素は、ひとつが突出しているだけでは本当の速さを生み出すことができません。新たなホイールの開発にあたり、シマノが掲げたコンセプトは「Balance to Win」。頂点を勝ち取るための究極のバランスを、ホイールの構成パーツを刷新することで生み出しました。

軽量性に大きく貢献したのが、リムとハブをつなぐスポークです。素材を従来のSUS（ステンレス鋼）からカーボンへ変更したことにより、高い剛性とこれまでにない軽さを併せ持つ仕様へと進化しています。また、ホイールの外縁部にあたるリムは、近年レースシーンで主流となっているワイドタイヤとの組み合わせを前提に、コンピューター解析によって最適な形状を追求。低い空気抵抗と安定したハンドリングを両立し、高いエアロ性能を実現しています。ホイール中心部のハブには、シマノが長年培ってきた信頼性の高いカップ&コーン構造を継続採用。メカニックによる精密なベアリング調整が可能なため、回転性能を最大限に引き出せることも大きな特長です。さらに、ベアリング部を完全に交換できる新構造を採用することで、優れたメンテナンス性も実現しています。細部にまでこだわり抜いたトータル設計により、最大220g※の軽量化を達成。全体的な剛性やエアロ性能も大幅に向上し、シマノ史上最高レベルのスペックを実現しました。

※現行モデルと比較して

「数値」と「感性」を科学的に結び付ける

ホイールを完成に導いたのは、長年培ってきた開発力や技術力、そして世界トップレベルのプロライダーたちの研ぎ澄まされた「感覚」です。開発の初期段階から契約チームのプロ選手のもとを訪れ、試作品に対する印象――走行時のハンドリング性能から、わずかな違和感まで――を細かくヒアリングしました。選手からのフィードバック、解析そして改善。これらのサイクルを繰り返すことおよそ5年。目に見える客観的なデータと、目には見えない直感的な印象を科学的に結び付けながら、実際のレースシーンで発揮される性能を磨き上げました。

シリーズ全体で届ける、勝利の喜び

本シリーズでさらにこだわったのが「システム全体の最適化」です。ホイールそのものだけではなく、ラインアップにもまた、あらゆるシーンで「勝つ」ための工夫を施しています。クライミングでの軽量性を重視した「C36」、高速巡航が求められる平坦路向けの「C60」、幅広いレースシーンで活躍する万能型の「C50」。さらに、タイムトライアルやトライアスロンに特化した「C99」と「ディスクホイール」が加わります。モデルごとにリムの外幅やスポークの形状・本数などを最適化し、各レースシーンにおけるパフォーマンスを高めました。

数値と感性、その両方から追求を重ね、誕生した「WH-R9370」シリーズ。DURA-ACEの設計哲学「Science of Speed」を体現した「勝つための総合力」が、世界中のライダーに勝利の喜びをもたらします。

釣具事業

最新技術の融合が叶える 歴代最高の巻きごこちとキャスト性能

象徴的な“高剛性”円型ボディに、デジタル制御技術を融合した「カルカッタコンクエストDC」。滑らかで力強い巻きごこちと、トラブルレスなキャスト性能を有した、シマノを代表する両軸リールのひとつです。今春発売された新型モデルは、これらの持ち味を最新テクノロジーによってさらに高い次元へと引き上げています。

内部機構には、“シルキー”な巻きごこちを叶える「マイクロモジュールギア」に加え、ハンドルの力をダイレクトに伝える「インフィニティドライブ」、滑らかさや静粛性に寄与する「サイレントドライブ」を採用。巻きの軽さとスムーズ性が一層進化しました。

シリーズ名にも冠される「DC」は、デジタルコントロールブレーキ（Digital Control Brake）を意味します。キャスト中に発生するスプール回転を瞬時に検知し、電子回路によってブレーキ力を緻密に制御するこの技術は、長年にわたり培ってきた当社独自の高い開発力と精密制御技術によって実現されたものです。その心臓部となるブレーキ制御システムは、新たに「I-DC5」へと刷新。全15段階からなる強度設定と、外部ダイヤルのみで完結する優れた操作性により、より細やかで直感的なブレーキ調整が可能になりました。これらの相乗効果によって、抜けるような遠投性能、木々に覆われた水面も的確に狙えるコントロール性能、さらに軽量ルアーにも対応できる高い汎用性を実現しています。

数々の先進技術が融合して生まれた新型「カルカッタコンクエストDC」。歴代最高レベルの巻きごこちとキャスト性能が、高みを目指す釣り人の一投を支えます。

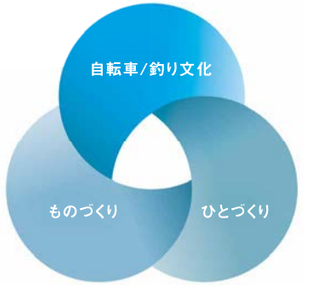
次世代育成と釣り文化の継承に向けた取り組み『シマノ 魚と自然体験フェス』

今年5月、大阪北港マリーナにおいて、親子参加型イベント『シマノ 魚と自然体験フェス』を開催しました。本イベントは子どもたちとその保護者を対象に、「学ぶ」「釣る」「調理する」「食べる」の体験を通じて、魚や自然への関心を深めていただくことを目的としたプログラムです。

当日は、陸上プールでのニジマス釣りと、神戸沖でのアジ釣り体験を実施しました。サポートスタッフが各プログラムを支援し、参加者に釣りの楽しさや自然とふれあう機会を提供するとともに、船釣りではシマノ製タックルを使用いただき、製品を体感していただきました。

参加者からは、「子どもの成長や自信につながった」「親子で船釣りに挑戦できた」といった感想に加えて、体験後もご家庭で魚を調理して楽しんだとの声が寄せられました。本イベントは、次世代を担う子どもたちが釣りや自然の魅力に触れる機会となり、釣り文化の継承につながる取り組みとなりました。

シマノトリコロール（アクティビティ）



製品・人・文化が織りなす新たな価値「シマノトリコロール」

シマノトリコロールは、当社が掲げるミッション「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。」を体現する価値観です。当社では、シマノトリコロールを支える3つのテーマ「ものづくり」「ひとづくり」「自転車/釣り文化」を軸にした、様々な活動に取り組んでいます。

トピック

ひとづくり

グローバルな経験を通じた「ひとづくり」

シマノでは、社員一人ひとりの成長を企業価値向上の基盤と捉え、国や地域を越えて協働できる人材の育成に取り組んでいます。

その一環として、社内大学「Shimano Campus」において、2024年より「Apprentice Program」を実施しています。本プログラムでは、社員が約3か月間、勤務地とは異なるチームシマノの拠点に滞在し、現地メンバーとの協働や交流を通じて学びを深めています。

当初はシマノヨーロッパとその営業子会社との間で実施し、2025年からはシマノ本社とシマノヨーロッパ間にも実施対象を拡大しました。参加者は現地での業務や日常的なコミュニケーションを通じて、各地域の事業環境や価値観、意思決定のプロセスへの理解を深めています。こうした経験は、拠点間の相互理解を深め、グローバルな連携強化にもつながっています。

また、参加者にとっては、自らの業務や組織を客観的に見つめ直す貴重な機会にもなっています。帰任後には、現地で得た学びを生かし、業務改善や組織間連携の強化に取り組む事例も生まれています。

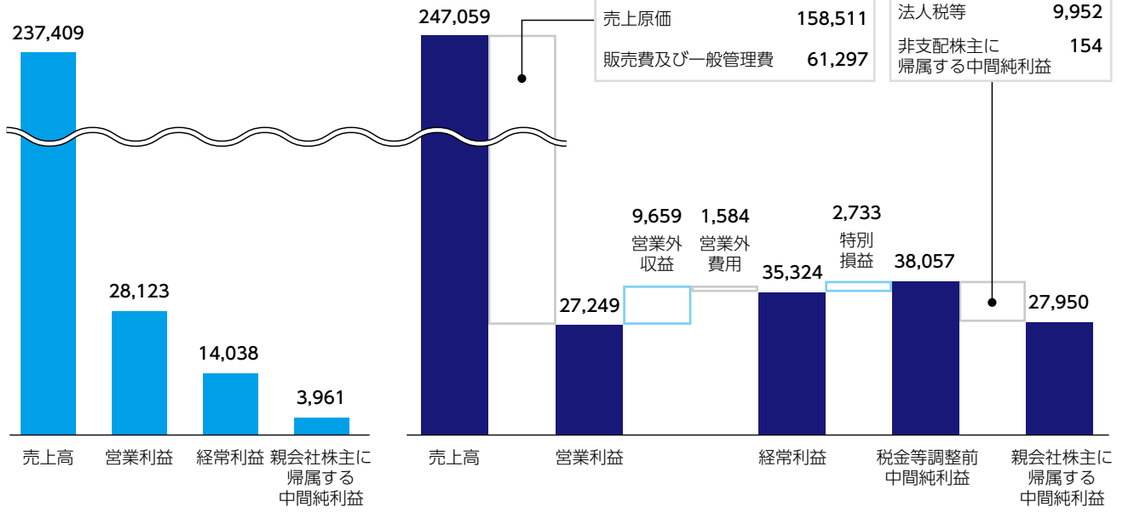
シマノは今後も、こうした実践的な学びの機会を通じてグローバルな事業運営を支える人材の育成を推進し、持続的な成長と企業価値の向上を目指してまいります。

■ 連結損益計算書（要約）

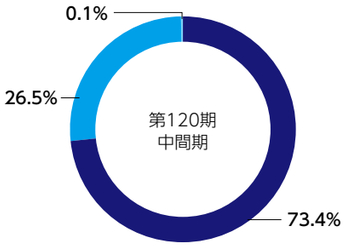
第119期中間期
2025年1月1日～2025年6月30日

第120期中間期
2026年1月1日～2026年6月30日

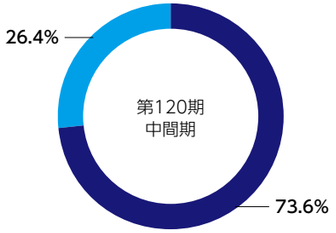
（単位：百万円）



■ セグメント別売上高比率



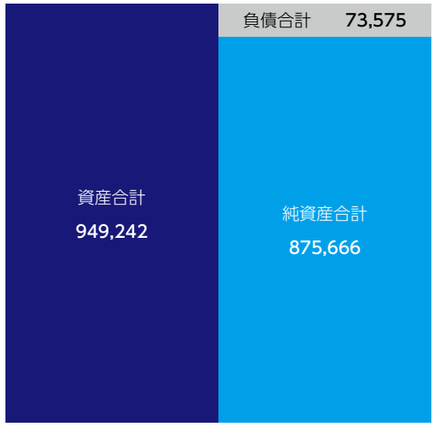
■ セグメント別営業利益比率



■ 連結貸借対照表（要約）

第120期中間期末　2026年6月30日現在

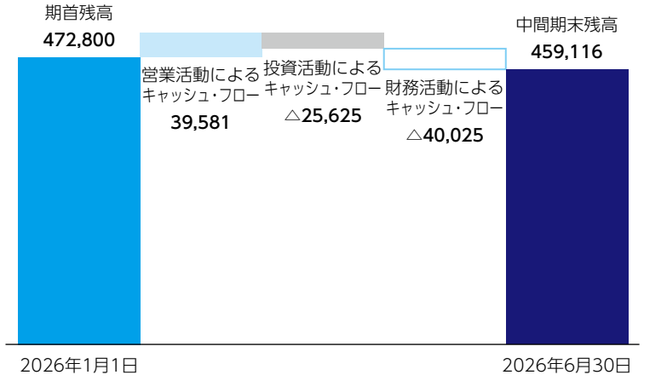
（単位：百万円）



■ 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

第120期中間期　2026年1月1日～2026年6月30日

（単位：百万円）



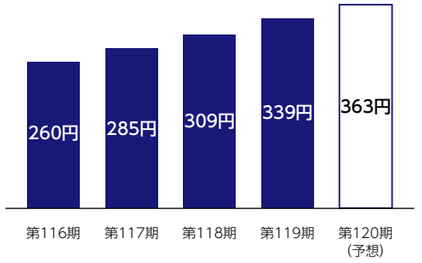
（注）現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しております。
それにより生じるグラフの誤差については調整しております。

※その他の財務関連データにつきましては当社ホームページ「投資家情報：財務ハイライト」をご参照ください。
https://www.shimano.com/jp/ir/finance-highlights.html

年間配当金の推移

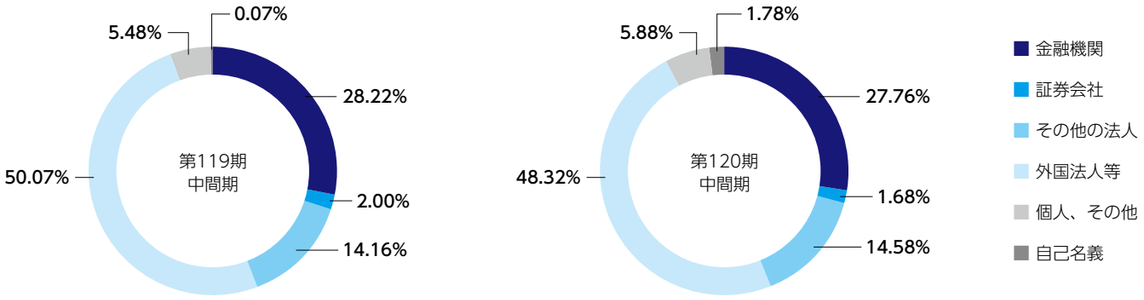
第120期中間期末の配当金は、前年同期から12円増配の1株当たり181円50銭とし、年間配当予定額は、当期末の配当を181円50銭として1株当たり363円を予定しております。

株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、今後も安定的な配当の維持・継続とともに業績の進展に応じた成果の配分を行ってまいります。



■ **発行可能株式総数**　262,400,000株
■ **発行済株式の総数**　86,530,000株
■ **株主数**　12,721名
■ **単元株式数**　100株

所有比率



大株主（上位10名）

株　主　名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	10,680	12.57
湊興産株式会社	7,972	9.38
JP MORGAN CHASE BANK 380055	6,203	7.30
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	4,458	5.25
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	2,528	2.97
株式会社スリーエス	2,171	2.55
日本生命保険相互会社	1,801	2.12
株式会社りそな銀行	1,211	1.43
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	1,167	1.37
STICHTING PENSIOENFONDS ZORG EN WELZIJN	1,123	1.32

(注) 1　当社保有の自己株式を除く上位10名を記載しております。
　　2　持株比率は自己株式（1,539,103株）を控除して計算しております。

社　　名	株式会社シマノ
英文社名	SHIMANO INC.
創業年月	1921年2月
設立年月	1940年1月
資 本 金	35,613百万円
事業内容	自転車部品、釣具、 ロウイング関連用品等の製造販売
本　　社	〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地
U R L	https://www.shimano.com

■ 役員

代表取締役会長兼CEO	島野容三	上席執行役員	金井琢磨
代表取締役社長	島野泰三	上席執行役員	大津智弘
代表取締役副社長	豊嶋　敬	上席執行役員	島野勇三
代表取締役副社長	津崎祥博	上席執行役員	能勢佳孝
専務取締役	チア チン セン	執行役員	中野敬介
社外取締役	一條和生	執行役員	島野豪三
社外取締役	勝丸充啓	執行役員	高柳優寛ファビオ
社外取締役	榊原定征	執行役員	嶋田　力
社外取締役	和田浩美	執行役員	平野秀樹
社外取締役	江口あつみ	執行役員	大瀬戸葉子
常勤監査役	吉本昌義		
常勤監査役	大竹正浩		
社外監査役	野末佳奈子		
社外監査役	三寺章敬		

■ 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月
基準日	期末配当金　毎年12月31日 中間配当金　毎年　6月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 当社のホームページに掲載いたします。(https://www.shimano.com/jp/ir/electronic.html) ただし、やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話　0120-782-031（フリーダイヤル） 受付時間　9:00～17:00 （土･日･祝日および12/31～1/3を除く）
ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency
よくあるご質問（FAQ）	https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal お手続き方法やよくあるご質問は、上記「よくあるご質問(FAQ)」サイトでご確認いただけます。
証券コード	7309